

—大学教育開放センター利用による— 医療技術者リフレッシュ教育の試み

谷島 清郎 小島 一彦 稲垣美智子 長井 雅子
洲崎 俊男 松田 勇 八重沢敏男 川島 和代
大石 茂雄 中山 和也 (金沢大学医学部保健学科)
佐伯 信男 (金沢大学大学教育開放センター)

金沢大学教育開放センターが例年主催している大学公開講座に医学部保健学科の科目等履修生としての単位取得制度を併合した生涯教育型の講座を、平成8年5～6月(前期)及び10～12月(後期)に、金沢大学で始めての試みとして実施した。それが、現実に医療技術分野で社会人として活躍する専門職の人々の、また一般社会の人々のリフレッシュ教育にどのように役立ったか、講座の内容と実施後の評価、今後の課題等について、受講者へのアンケート結果も含めてまとめた。

受講対象者及び講座の日程

大学公開講座の受講対象者は一般社会人で年齢、性別、学歴、地域を問わないとされている。今回、新たに対象者として加えられたのが金沢大学における各学部の科目等履修生制度に基づく受講生で、本制度における申し込み資格は高等学校卒業者またはそれと同等以上のものとなっている。今年度の受講者を表1に示した。

表1 受講者の内訳

一般受講者	科目等履修生	合計
前期 男子	女子	女子
7	7	5
後期	11	48
	16	75

この科目等履修生は、大学で開講している授業科目を履修し、試験等により一定の成績を修めると単位が授与されるが、これは大学の正規の単位となる。したがって、この申請をする場合は、開放講座への申し込みと同時に該当する学部の科目等履修生への登録が必要となる。

講座の日程は、表2の通り前期と後期に分れており、今年度は両期間とも毎週1回(木曜日)午後6時～7時30分である。開放センター講義室と一部は保健学科講義室を会場として実施された。いずれも1単位である。

表2 講座の日程

前 期	後 期
情報管理学 —医学検査情報の収集管理とネット ワーク利用—	人間関係援助論 第1回(10月17日) 「人間関係」について

第1回（5月9日）	医学検査の現状	2回（24日）	人間関係に関する諸問題(1) 日本人の自己、出会い、役割
2回（16日）	検査情報の重要性	3回（31日）	人間関係に関する諸問題(2) 人間理解としての心理学
3回（23日）	ネットワークによる情報収集	4回（11月7日）	人間関係に関する諸問題(3) 人間の心の動き
4回（30日）	新しい検査技術への道	5回（14日）	カウンセリングにみられる人間関係援助の実際
5回（6月6日）	看護と検査情報	6回（21日）	痴呆老年者にみられる人間関係援助の実際
6回（13日）	リハビリテーションと検査情報 1	7回（28日）	グループダイナミックスを活用した人間関係援助の実際
7回（20日）	リハビリテーションと検査情報 2	8回（12月5日）	人間関係援助技術を高めていくために
8回（27日）	まとめ		

講座の内容

情報管理学

1. 臨床検査の現状

- 1) 日常初期診療において臨床検査はどのように使われているか—日本臨床病理学会の基本的検査（案）—
- 2) 健康と長寿に関連する臨床検査—循環器疾患の検査とWHO国際共同研究センター情報—
- 3) 健康科学、環境医学の立場からみた総合検診活動—健康と環境の自己管理—
- 4) 薬物に対する検査情報—農薬中毒に関連した臨床検査—

2. 検査情報の重要性

- 1) 臨床検査標準化の動向
- 2) 米国における健康教育キャンペーンと臨床検査室の西暦2000年計画
- 3) 検査の陰性、陽性と医学判断学
- 4) 遺伝子診療の技術と情報の管理

3. ネットワークによる情報収集

- 1) 医用情報の種類と役割
- 2) 医療情報のデジタル化
- 3) ネットワーク（LAN, WAN）構築
- 4) 広域医療情報の収集と選択
- 5) 病院情報管理システム（HIS）

金沢大学情報処理センターにて情報検索演習

4. 新しい検査技術への道

- 1) 遺伝子と病気
- 2) 遺伝子の構造
- 3) 遺伝子の情報発現
- 4) 組換えDNAおよび遺伝子解析に用いる方法
- 5) 遺伝子のクローニング（組換えDNA）
- 6) 遺伝子解析の具体例

5. 看護と検査情報

- 1) 看護の定義
- 2) 看護実践と看護実践に必要となる情報
- 3) ヘルスケア・システムの変化
- 4) 看護における情報管理とネットワーク参加の現状
- 5) 看護と検査情報の課題

6. リハビリテーションと検査情報（I）

- 1) リハビリテーションと検査情報との関わり
- 2) 評価と検査情報管理
- 3) 患者の全体像とは
- 4) 評価の留意点

7. リハビリテーションと検査情報（II）

- 1) 障害の構造
- 2) 身体機能障害
- 3) 精神機能障害
- 4) 日常生活活動の障害
- 5) 社会的不利
- 6) 心理的問題
- 7) 治療計画

8. まとめ

医療、健康の分野における情報網の現状と将来

人間関係援助論

1. 「人間関係」について
 - 1) 人間関係、人間関係援助とは
 - 2) 人間関係論の関連学問と人間関係の課題
2. 人間関係に関する諸問題〔I〕
 - 1) 人はなぜ人間関係をもとうとするのか。欲求という側面からのアプローチ
 - 2) 他者理解と他者判断について
 - 3) 自己と他者の比較
 - 4) 「自己」について
 - 5) 人間関係に活用される方法論
3. 人間関係に関する諸問題〔II〕
 - 1) 生涯発達と人間関係

2) 共感能力の発達

4. 人間関係に関する諸問題 [III]

1) 言葉の有効性と限界

2) 非言語的コミュニケーション

3) 非言語的メディア

4) メディア解読能力

5. コミュニケーションについて

1) コミュニケーション学の立場から

2) 言語を介するコミュニケーション

3) コミュニケーションの技術

6. 痴呆老年者にみられる人間関係援助の実際

1) 痴呆とは

2) 診断基準

3) 老人の知能テスト

4) 脳の機能

5) 痴呆の早期発見の重要性

6) 痴呆性老人とのかかわり

7. グループダイナミックスを活用した人間関係援助の実際一看護者の立場から

1) 人間関係援助の難しさ

2) ナイチンゲールの言葉・人間のちからを信じること

3) カールロジャースの目標

4) 集団の中の個

5) 積極的傾聴

8. 人間関係援助技術と共に過ごす時間により豊かに—

1) 話し合う

2) コミュニケーション技術を高める技術と訓練

3) 自分の意識と行動を知るための具体的な訓練

4) 自己への気づきを表現するための技術と訓練

5) コミュニケーションの技術—カウンセリングを例に

受講の評価

前期開講の情報管理学についての単位評価は、実際のネットワーク利用による医療関連の情報収集を課題としたレポート提出によって行った。課題としては、以下のいずれかのアクセスナンバーによる医療情報の検索とそれに対するエッセイ記述とした。科目等履修生の5名は、膨大な資料から必要な情報をよく整理しており、十分に学習効果をあげることができたことを評価できた。

1) 生化学関連データベース JB-Online <http://www.bcasj.jp>

2) 分子生物学関連データベース DBGET <http://www.genome.ad.jp>

3) 染色体、遺伝子関連データベース GDB <http://gdb.gdbnet.ad.jp>

4) Nature <http://www.naturejpn.com>

5) がんセンター <http://wwwinfo.ncc.go.jp/>

後期開講の人間関係援助論への受講は75名であり、地域では石川県がほとんどを占め富山県からの受講生もあり、石川県内は能登町から加賀市まで全域から受講された。

また全受講生のうち医療技術者の占める人数は、75名中48名であった。さらに科目履修の手続きはとらず一般受講した大学、短大卒業資格の32名（48名から科目履修16名を引いた人数）中21名であった。

一方科目履修の動機および講義評価を科目履修生から得た。その結果16名の科目履修生は学士取得と、実践的理論的理解を目的としている人が多かった。患者さんとの関係、管理者として部下との関係など、現実的な問題解決への糸口となる期待をもち受講したとの回答も多かった。講義については距離的に大変としながらも、欠席（2日）したのは1名のみであり、受講目的は全員が達せられたと評価された。しかし時間が許せば、カウンセリングなど実習してみたかったとの意見もみられた。

考 察

今回大学公開講座に新たに加えられた、科目等履修生として正規の単位が取得できる制度は、平成8年度の講座の案内にもあるように社会人として大学教育を受ける機会が拡大され、生涯教育が適切に評価される効果的なスタイルと思われる。現在、学位授与機構による学士の学位取得の制度も軌道に乗ってきており、その申請の際の単位としても認められるものである。

このスタイルによる公開講座を取り入れるにあたっては、本学の大学教育開放センターが卒業生、特に短期大学の卒業生に対して、継続的な学習の需要に関する詳細な調査を実施しており、その結果の一部は以下の通りである（石川県下 880人）。

学士号の学位の取得意志あり：55.1%

希望する授業時間帯 平日夜：24.9%

土曜午後：25.6%

希望する学士号 経済、経営：19.5%

看護、保健衛生：10.2%

なお、平成7年10月には、従来本学の併設であった医療技術短期大学部が改組されて金沢大学医学部保健学科が新たに発足し、平成8年4月1日に第1期生が入学して授業が開始された。もちろん、科目等履修生の制度は全学の学部規定に習って取り入れられ、大学開放センターの大学公開講座とのドッキングが可能となった。したがって、講座の内容は、保健学科が開設された初年度に開講された2教科である。このような事情から、科目等履修生の募集案内等の遅れもあって、前期の応募者は少なかったと思われる。単位取得の申請者には、看護婦として実際に勤務している人が多かった。

今回は、保健学科がスタートしたばかりでもあり、科目数も限られるなど問題点は多々あったが、講座の最終時に記入してもらった受講生の感想を参考に、科目等履修生制度を併合した公開講座の長所、短所をあげると次のようになる。

- 1) 就業しながら大学で学び、単位の取得ができる。
- 2) 実際の医療現場や就業先での問題点を再学習できる。
- 3) 生涯学習への拠りどころが得られ意欲ができる。
- 4) 種々の分野の社会人とのコミュニケーションができる、各方面からの社会への要望や期待が

参考になる。

- 5) 実際の経験を持ったいろいろな価値観の人々が大学教官を中心に議論できるので、多様性のある双方向の学習が可能となる。
- 6) 単位数を一度に多く取得できない。
- 7) 遠距離からの参加が難しい。
- 8) 夜間コースのみでなく、通常の講座も開放センターに導入し、大学生と同じように幅広く学びたい。

特に、今回主なる対象とした医療技術者にとっては、第3次医療法改正案が平成9年度に国会に提出される予定であり、これまでの総合病院に代わって地域医療支援型の病院が位置付けられる見通しであり^{1,2)}、病院の機能アップ、より高度な専門職能の発揮や効率性の追究など、ますます生涯学習が求められる機会が増えるものと推測される。また、文部省の21世紀医学・医療懇談会の医療関係者の養成のあり方の提言にも今後の医療界における生涯教育の重要性を伺うことができる^{3,4)}

以上のような現状を考えるとき、大学での公開講座は単に知識や興味を広げるというのみではなく、一定の資格や学位の取得に結び付く単位取得の方向が相応しいことはまちがいないであろう。本制度が少しづつでもそれに貢献できることを期待する。

参考

1. 第3次医療法改正案 名称独占としての「総合病院」廃止へ、The Medical & Test Journal 523号、5月13日（月）、1996。
2. 21世紀の医療への挑戦、第46回日本病院学会、平成8年6月6～8日、福井市、医学界新聞 7月22日（月）、1996。
3. 文部省 「医療技術部会」設置を検討、The Medical & Test Journal 525号、5月27日（月）、1996。
4. 地域医療支援病院を2次医療圏に数か所設置、The Medical & Test Journal 529号、6月24日（月）、1996。